学校番号	304

令和８年度　芸術科（音楽）

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	音楽Ⅱ「Tutti＋」　（教育出版）						
副教材等	MUSIC NOTE（啓隆社）歌のミュージックランド（教育芸術社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「歌う」「楽器を演奏する」「音楽を聴く、観て聴く」の３つの分野を年間通して学習します。

・学習の到達度は、ノートでのワークや実技テストで評価します。

・音楽の学習は、実技を伴い、皆で美しいハーモニーを奏でることを目標にして、皆さんの感性を育みます。

・音楽が、生涯ずっと、みなさんの心の支えとなり、生きていく力となることを願っています。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】

・ 曲想と音楽の構造を理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

・感性を高めて音楽の良さを感じ取り、それを生かして創造的に表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

・我が国や西洋音楽を含む諸外国の音楽を学習し、それぞれの音楽文化の特性や良さを感受すると共に 多様な音楽観の育成を図り、主体的な鑑賞の能力を伸ばす。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、より一層創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に着けるようにする。	自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫することや、音楽を形づくっている要素の知覚･感受を全ての音楽活動の支えとなるよう一層明確に位置付け、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。感受したことを言語化できるようにする。	主体的、協働的に他者と伝え合う活動を一層大切にし、音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かにしていく態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	歌唱	「Smile」「Pretender」 「Tomorrow」 クラスの歌声を響かせよう 「Core 'ngrato」 「Piacer d'amor」 イタリア語に挑戦	a: 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。 b: 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように歌うか、表現意図をもっている。 c: 歌う喜びを味わい、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取
	器楽	「Down by the sally gardens」 「交響曲第１番」から第４楽章 「Air～「水上の音楽」から～」 「風の谷のナウシカ～エンディング～」 「カノン集」 ◆リコーダー運指表	a: 表現したいことを伝えるための技能を身に付けている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、表現する。 c: アンサンブルに関心をもち、その持ち味を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取
	鑑賞	日本の音風景～四季の音楽～ 春の海/春庭歌ほか ◆日本音楽の流れ ◆音楽史と史実 ◆鑑賞ノート	a:時代を経るに従った、それぞれの背景を伴った音楽の変遷を知る。 b:音楽の持つ力、美しさを感じ取る。 C:社会にとっての音楽の意味や価値について考える。	観察、ワークシート	観察、ワークシート	観察、ワークシート

二学期	歌唱	「Yesterday once more」 「Let it be」 「Take me home, country roads」	a:曲想を歌詞や楽曲の背景と関わらせて、イメージをもって音楽表現するために必要な発声、英語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付けている。 b:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c: 曲想や歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりに関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取
	器楽	『ニュー・シネマ・パラダイス』 「タイトル曲」 「二人だけの映写会」 「愛のテーマ」	a: 選択楽器の音色や奏法の特徴を生かした技能を身に付け、創造的に表している b:音色やリズムなど音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 c:選択楽器の音色や奏法の特徴に関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組んでいる。	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取

	鑑賞	名曲プレゼンテーション―演奏家と楽器が生みだす音楽の魅力―（自作） 「無伴奏チェロ組曲第１番 」 「ツィゴイネルワイゼン」 「アルハンブラの思い出」 「ハンガリー田園幻想曲」 「クラリネット・ソナタ第２番」 「アダージョとアレグロ」 「ハープ・ソナタ」	a：曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり，音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。 b：音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠，音楽表現の共通性や固有性について考え，音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。 c：紹介文を作成してプレゼンテーションすることや，様々な楽器の構造や発音原理の違いによって生み出される音色に注目したり独奏曲を通して奏者の表現の特徴を比較したりすることに関心をもち，主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	観察、ワークシート	観察、ワークシート	観察、ワークシート
三学期	歌唱・器楽・創作	コンサートを開こう（自作） 「いのちの名前」 「心と心で」 「残酷な天使のテーゼ」 「想い出がいっぱい」	a：音楽Ⅱの１年間の学習における表現や鑑賞の知識に関する諸事項について理解している。 音楽Ⅱの１年間の学習における技能に関する諸事項を身に付け，歌唱や器楽，創作で表している。 b：音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成などを知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，個性豊かに歌唱や器楽表現を創意工夫している。 c：１年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することに関心をもち，主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取	観察、演奏の聴取

	鑑賞	世界のさまざまな音楽の魅力 (声の音楽) 「ジョージアの男声合唱」 「ポリネシアのヒメネ」 「ドゥルパド」 「草原情歌」 「トラジ タリョン」 「赤いサラファン」 「ソルヴェイグの歌」 「母が教えた歌」 声明「散華」 平曲「那須与一」 「こきりこ節」 「佐渡おけさ」	a:曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり，音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり，郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。 b:音色，リズム，速度，旋律，強弱，構成を知覚し,それらの働きを感受しながら,知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに,自分や社会にとっての音楽の意味や価値,音楽表現の共通性や固有性について考え,音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 c:世界の諸民族の様々な声の音楽から音楽表現の多様性を捉えることや,諸民族の声の音楽と日本の声の音楽の比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性,共通性を考えることに関心をもち，主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	観察、ワークシート	観察、ワークシート	観察、ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度